

日本人大学生と中国人留学生におけるあいさつの使用実態について —出会いの場面を中心に—

丁 尚虎・黄 利斌・上原 聡

東北大学大学院国際文化研究科

sghimkf@yahoo.co.jp

1. はじめに

あいさつとは、人間関係を作り、維持するため、ある場面における最初と最後のところで、相手との関係を考慮しながら使用する社会的・儀礼的な表現である。日本語を母語としない人々に日本語の指導を行う場において、あいさつは重要な指導項目であると認識されている (中道他 1999)。

日本語の「おはよう～」や「こんにちは」などの使用に戸惑っている中国人留学生が少ない (施 2005・園田 2006)。これについて、筆者は、2015年3月11日～5月24日、中国人上級日本語学習者 (40名) を対象に、「日本人のあいさつが難しいと思うか」、「一番難しいと思うところはどこにあるのか」などの質問を含むインタビュー調査を実施した (録音時間: 計7時間15分44秒)。その結果、中国人上級日本語学習者 (以下中国人留学生) が戸惑っている困難な点として、以下の3点があることが分かった。

- ①午前中10時か11時ごろ、「おはよう (ございます)」と「こんにちは」との使用上の使い分けが困難である (16例)
- ②あまりよく知らない人に対してどのようにあいさつをすべきかわからない (9例)
- ③上位者に対してあいさつをする場合、敬語表現の使用を忘れやすい (4例)

しかし、あいさつに関する従来の研究は、日本語上級学習者が戸惑っているところに重点を置いているわけではない。そこで、中国人留学生が戸惑っているところで日本人大学生と中国人留学生がどのようにあいさつをしているのかを明らかにするため、日本人大学生130名と中国人留学生102名を対象とし、自由記述式調査を行った。本発表ではその結果を報告し、ポライトネスの観点から考察する。

2. 調査概要

中国人留学生と日本人大学生におけるあいさつの使用実態を把握するため、2015年11月1日から11月26日まで、以下の場面1と場面2を設定し、20代前後の中国人留学生102名 (男42名・女60名) と日本人大学生130名 (男85名・女45名) を対象とし、自由記述式調査を実施した。

場面1. 午前11時ごろ、大学の廊下でその日初めて以下の人に出会ってあいさつするか。あいさつをする場合、どのようにあいさつするか。

場面2. 平日お昼の12時半ごろキャンパスで、食堂に向かう途中、その日初めて以下の人に出会ってあいさつするか。あいさつをする場合、どのようにあいさつするか。

上述の場面1と場面2における「以下の人」には、「あまり親しくない先生」、「親しいと思う先生」、「親友」、「あまり親しくない先輩」、「親しいと思う先輩」という5つの対人関係がある。「あまり親しくない」については、「話をしたことはあるが、プライベートなことまで話題にしない/しそもない」というように注記している。「親しい」については、「プライベートなことでも話せる/話せそう」と注記している。

3. 調査の結果

3.1 あいさつの有無

同一の場面で、相手に出会った場合、あいさつをするかどうかは、対人関係によって異なる。表1と表2が示しているとおり、その日はじめて「親友」と「親しいと思う先輩」に出会った場合、中国人留学生にせよ日本人大学生にせよ、必ずあいさつをするが、「あまり親しくない先生」、「親しいと思う先生」、「あまり親しくない先輩」に出会った場合、必ずしもそうではない。

表 1 場面 1 におけるあいさつの有無

場面 1 対人関係	あいさつをする				有意差の 有無
	日本人大学生		中国人留学生		
	人数	割合	人数	割合	
あまり親しくない先生	53	41%	100	98%	**
親しいと思う先生	120	92%	102	100%	ns
親友	130	100%	102	100%	ns
あまり親しくない先輩	109	84%	101	99%	ns
親しいと思う先輩	130	100%	102	100%	ns

(ns: not significant, + $p < .10$ * $p < .05$ ** $p < .01$)

表 2 場面 2 におけるあいさつの有無

場面 2 対人関係	あいさつをする				有意差の 有無
	日本人大学生		中国人留学生		
	人数	割合	人数	割合	
あまり親しくない先生	46	35%	100	98%	**
親しいと思う先生	120	92%	102	100%	ns
親友	130	100%	102	100%	ns
あまり親しくない先輩	107	82%	100	98%	ns
親しいと思う先輩	130	100%	102	100%	ns

(ns: not significant, + $p < .10$ * $p < .05$ ** $p < .01$)

表 1 と表 2 によると、「あまり親しくない先生」に出会った時に、半分以上の日本人大学生はあいさつをしないのに対して、9 割以上の留学生はあいさつをしている。これについて、カイ 2 乗検定を行った結果、場面 1 でも場面 2 でも同様の傾向を示している ($p < .01$)。

3.2 「おはよう (ございます)」

あいさつ表現「おはよう (ございます)」の対人関係による使用制限が顕著である。これについては、表 3 と表 4 から窺える。表 3 と表 4 が示している通り、あまり親しくない先生に対して、「おはよう (ございます)」とあいさつする日本人大学生は少ないが、そのようにあいさつする中国人留学生が多い。これは、上記表 1 と表 2 におけるあまり親しくない先生に、半分以上の日本人大学生があいさつしないのに対して 9 割以上の中国人留学生があいさつするという結果と関係している。

表 3 場面 1 における「おはよう (ございます)」の使用

おはよう (ございます)	日本人大学生		中国人留学生		有意差の有無
	人数	割合	人数	割合	
あまり親しくない先生	17	13%	46	45%	**
親しいと思う先生	52	40%	52	50%	ns
親友	56	43%	40	39%	**
あまり親しくない先輩	26	20%	46	45%	ns
親しいと思う先輩	37	28%	56	55%	ns

(ns: not significant, + $p < .10$ * $p < .05$ ** $p < .01$)

表4 場面2における「おはよう（ございます）」の使用

おはよう (ございます)	日本人大学生		中国人留学生		有意差の有無
	人数	割合	人数	割合	
あまり親しくない先生	1	0.8%	13	13%	**
親しいと思う先生	8	6%	12	12%	ns
親友	33	25%	10	10%	**
あまり親しくない先輩	5	4%	12	12%	+
親しいと思う先輩	10	8%	12	12%	ns

(ns: not significant, + $p<.10$ * $p<.05$ ** $p<.01$)

また、午前中 11 時ごろにせよ午後 12 時半ごろにせよ、親友には「おはよう（ございます）」とあいさつする日本人大学生は中国人留学生より多い。カイ 2 乗検定を行った結果から、場面 1 と場面 2 における親友に対する「おはよう」の使用について、日本人大学生と中国人留学生の間に顕著な有意差がある ($p<.01$) ことがわかる。

3.3 「こんにちは」

下記の表 5 と表 6 から窺えるように、中国人留学生にせよ日本人大学生にせよ「こんにちは」は、「おはよう（ございます）」と異なり、時間による使用制限が見られない。しかし、日本人大学生における「こんにちは」は、対人関係による使用制限が強いことが分かる。すなわち、先生と先輩に対して、「こんにちは」を使用している日本人大学生が少なくないが、親友に対して使用している学生がほとんどいない。それに対して、親友に対しても「こんにちは」を使用している中国人留学生が少なくない。

表5 場面1における「こんにちは」の使用

「こんにちは」(場面1)	日本人大学生		中国人留学生		有意差の有無
	人数	割合	人数	割合	
あまり親しくない先生	16	12%	51	50%	**
親しいと思う先生	54	42%	51	50%	*
親友	3	2%	25	25%	**
あまり親しくない先輩	31	24%	42	41%	ns
親しいと思う先輩	42	32%	37	36%	*

(ns: not significant, + $p<.10$ * $p<.05$ ** $p<.01$)

表6 場面2における「こんにちは」の使用

「こんにちは」(場面2)	日本人大学生		中国人留学生		有意差の有無
	人数	割合	人数	割合	
あまり親しくない先生	26	20%	78	76%	**
親しいと思う先生	93	72%	80	78%	**
親友	5	4%	44	43%	**
あまり親しくない先輩	44	34%	71	70%	ns
親しいと思う先輩	67	52%	61	60%	**

(ns: not significant, + $p<.10$ * $p<.05$ ** $p<.01$)

場面1において、親友に「こんにちは」を使っている日本人大学生は2% (3人) しかいないのに対し、親友に「こんにちは」を使用している中国人留学生は25% (25人) に達している。また、場面2において、親友に「こんにちは」とあいさつする日本人大学生は4% (5人) しかいないのに対して中国人留学生は43% (44人) に達している。これについて、カイ2乗検定の結果を見ると、親友に対する「こんにちは」の使用について、場面1でも場面2でも、日本人大学生より、中国人留学生のほうが多用する傾向が認められる ($p < .01$)。

つまり、日本人大学生は、ウチに属する親友に対して「こんにちは」をほとんど使用していないのに対して、中国人留学生はほとんど使い分けずに、先生と先輩だけではなく親友にも多く使用している。

4. 考察

上記の結果をまとめると、以下のことが明らかになる。

- ① 日本人大学生は、その日はじめて偶然出会った場合、あまり親しくない先生にあいさつをしない傾向が顕著である。中国人留学生は、そのような傾向がない。
- ② 「おはよう (ございます)」の使用について、場面2 (午後12時半ごろ) では、親友に対して中国人留学生より日本人大学生のほうがより多く使用している。
- ③ 「こんにちは」の使用について、対人関係による使用制限について見ると、親友に使用する日本人大学生がほとんどいないのに対して、親友にも使用している中国人留学生が少なくない。

上述の結果は、日本人と中国人におけるポライトネスに対する意識の違いと深くかかわっていると考えられる。滝浦 (2008) によると、ネガティブ・ポライトネスは、相手の領域に踏み込むことや直接名指すことを避け、遠隔化的表現と間接的表現によって、相手を遠くに置き、事柄に直接触れないようにする、表現の敬避性を特徴とする。それに対して、ポジティブ・ポライトネスは、直接的表現と近接化的表現によって、相手との距離を縮め、相手とともに事柄に直接触れようとし、表現の共感性が特徴となる。

上述の結果①が出たのは、日本人大学生と中国人留学生におけるポライトネスに対する意識の違いによると考えられる。日本人大学生は相手のネガティブ・フェイスへの配慮が強いのに対して中国人留学生は語用論的転移により、相手のポジティブ・フェイスへの配慮が強いと考えられる。

上述の結果②と③が出たのは、中国人留学生は日本人大学生におけるポライトネス意識への理解が不足していることによると考えられる。たとえば、日本人大学生がネガティブ・ポライトネスの意識で使っている「こんにちは」等を中国人留学生が誤解して親友に対しても使っていると考えられる。

参考文献

- 施暉 (2005) 「「あいさつ」言語行動に関する日中比較研究—日本語のあいさつに対する中国人留学生の違和感について」『広島国際研究』11, pp.245-263, 広島市立大学国際学部
- 園田博文・奥村圭子・内海由美子・黒沢晶子 (2006) 「留学生と日本人学生の交流活動実践から見えてくるもの—「気づき」を通じた異文化間コミュニケーション能力の養成に向けて—」『山形大学紀要 (教育科学)』14(1), pp.11-33, 山形大学
- 滝浦真人 (2008) 『ポライトネス入門』 研究社
- 中道真木男・石田恵里子 (1999) 「日本語学習者と『あいさつ』—日本語教育の場で」『国文学—解釈と教材の研究—』44 (6) , pp.118-125, 学灯社